

愛知工業大学研究報告  
第49号 平成26年

## 博士学位論文

(内容の要旨及び論文審査の結果の要旨)

Wenzhen Shi

氏名 史 文珍  
学位の種類 博士 (経営情報学)  
学位記番号 博 甲 第 1 7 号  
学位授与 平成26年2月24日  
学位授与条件 学位規定第3条第3項該当  
論文題目 孔子論的問題解決アプローチの開発及び地域包括ケアシステムへの応用に関する研究  
(Study on the Development of Confucian Systems Approach and Its Application to Community-Based-Integrated Care System)  
論文審査委員 (主査) 教授 山本 勝<sup>1</sup>  
(審査委員) 教授 鈴木達夫<sup>1</sup> 教授 近藤高司<sup>1</sup>

### 論文内容の要旨

(孔子論的問題解決アプローチの開発及び地域包括ケアシステムへの応用に関する研究)

Study on the Development of Confucian Systems Approach and Its Application to Community-Based-Integrated Care System

近年,システムにおける実践的問題解決(システムづくり)には,合理的かつ効率的な方法・手段・手順の有効活用とともに,それを内面思想から支える精神・理念が必要不可欠な条件・課題となってきた。しかし,これまでの多くの問題解決事例から明確になったように,主に客観的な理想と現状のギャップを問題対象として,数理的・技術的・合理的ないわゆる「理」の視点・立場からの問題解決を行ってきた。しかし,人間・環境にやさしい社会システムづくりを目指すこれからの日本においては,住民のQOL向上・調和社会・持続社会の実現を目標として,上記の「理」の側面とともに,感性や人間性等主観的な「情」の側面とのバランス・融合のとれた問題解決理念・方針・戦略・方法・手段・手順が不可欠な条件・課題となってきたと言える。

そこで,本論文においては,「理」と「情」のバランスのとれた新しい問題解決理念・方針・戦略・方法・手段・手順を提案するために,中国及び日本をはじめとする東南アジアにおいて2,500年以上にわたって,人間の生き方,社会の

在り方及び国の治め方(あるべき姿)について,倫理面・人間面・道徳面から説いている孔子思想(とくに20篇500章から構成される「論語」において記述された内容・教え)をシステム・マネジメント論の視点・立場から,KJ法等を活用して整理・分類・体系化を行った。そして,ここで得られた孔子論的問題解決アプローチを用いて,システムづくりにおける主要課題:推進手順(システムズ・アプローチ),意識革新(問題意識),連携促進,評価体系(システム),情報支援等について考察及び提案を行った。また,ここで提案した孔子論的理念・方針・戦略・方法・手順等の有効性を検証するために,少子高齢化が急速に進行している日本においては,最も関心の深い地域包括ケアシステムの構築及び運用に応用してみた。

なお,本論文は9章からなり,第2章以降の内容は以下の通りである。

第2章では,「理」と「情」のバランスがとれた新しい問題解決アプローチを開発するために,人間主義を中心とした孔子思想を,KJ法等を活用してシステム・マネジメント論の視点・立場から整理・分類・体系化を試みた。なお,得られた結果に基づいて孔子思想の概要は,システム・マネジメント論の視点から「聞」・「権」・「安」という3つのキーワード(システム概念)にまとめられることを提案した。また,システム・マネジメント論の視点から体系化された孔子論的問題解決アプローチを,システムづくりにおける5つの主要課題に対して,適応並びに考察した結果について,以下の第3章~第7章において述べる。

第3章では,主に7つのシステム化基本理念と8個のステッ

ブから構成されている孔子論的システムズ・アプローチ（推進手順）を開発及び提案した。本アプローチは、「人間本位」、「バランス」、「全員参画」、「人間関係の重視」、「本質指向」という5大特徴を有している。従来の代表的なアプローチである帰納的アプローチと演繹的アプローチとの比較分析を行っている。また、本アプローチの有効性を検証するために、具体的な地域包括ケアシステムの構築及び運営に適用した。孔子論的推進手順の特徴の一つである全員参画及び協力・信頼の精神に基づいて、地域包括ケアシステムの構築及び運営においては、「官」・「産」・「学」・「民」という4者の推進主体により推進していくことを提案した。さらに、本アプローチにおいては、1) 個人の社会的責任PSR (Personal Social Responsibility) 「仁」の重視、2) 集合知「学」の強調、3) 教育啓発「教」の大切、4) 礼儀・マナー「礼」の提唱、という4つの視点・態度が重視されている。

第4章では、責任感「仁」、目標「志」、知識「知」及び基準「権」という4つの側面から構成されている並びに、問題意識が、問題解決の全過程において重要な役割を果たすという孔子論的問題意識構造モデルを提案した。なお、その有効性及び効果を検証するために、本研究における共同研究相手である豊田市を具体事例として、地域包括ケアシステムに対する市民の意識実態を分析した。その結果に基づいて、孔子論的問題意識構造モデルが地域関係者の意識構造分析及び意識啓発に有効であることを明らかにした。

第5章では、目標「志」、視点（「恕」と「時」）、役割分担「名」及び、相互関係「和」という4つの側面から構成される孔子論的連携モデルを提案するとともに、個人の社会的責任「仁」及び、知識・経験及び知恵を相互学習及び共有する集合知の形としての「学」が特に重要視であることを明らかにした。また、連携の阻害要因及び連携促進条件等について考察及び提言を行った。なお、介護・看護サービス従事者を対象とした連携実態調査結果に基づいて、孔子論的連携モデルの特性を明らかにしたとともに、連携促進における問題点及び連携促進方策等について考察を行った。

第6章では、評価方法、評価角度・視点、評価対象及び評価基準から構成される孔子論的評価体系（システム）を提案するとともに、タイミング及び継続性を重視する「評価視点」、安心・安全・安定に関する「安」の「評価尺度」及び、社会的貢献を最優先する「重み付け評価方法」の3項目に孔子論的評価システムの特徴をまとめた。なお、提案した孔子論的評価体系に基づいて、医師の意識及び活動実態分析及び評価を行った。

第7章では、高度情報社会における問題点及び課題をシステム・マネジメント論の視点から考察する。とくに、孔子論的問題解決アプローチから、これからの高度情報社会にお

ける問題解決方策並びにその情報システム化について考察並びに提言を行った。

第8章では、今後の課題として、本論文で提案したシステムづくりにおける5大主要課題における孔子論的問題解決アプローチの更なる改良・発展をめざして、他の優れた思想・技術、例えば、老子、孟子思想との融合の可能性と期待について考察した。また、本孔子論的問題解決アプローチの適応分野・領域として、安心・安全・快適・豊かな生活を目指している人間社会が抱えている多くの難問題への適応について述べている。

第9章では、本論文の結論として本研究の総括を行うとともに、今後の検討課題について述べている。

#### 論文審査結果の要旨

近年、社会における実践的問題解決（システムづくり）には、合理的かつ効率的な方法・手段・手順（How to do）の有効活用とともに、それを内面から支える思想・精神・理念・指針（Why to do & What to do）とのバランスが重要な課題となってきた。しかしながら、これまでの多くの問題解決事例からも明らかのように、多くの場合においては、数理的・技術的・合理的な、所謂、「理」の視点・立場からの問題解決に偏りがちであった。しかし、人間・環境・地域にやさしい社会システムづくりを目指すこれからの日本においては、住民のQOL（Quality of Life）向上・調和社会・持続社会の実現を目標として、上記の「理」の側面とともに、感性・達成感・倫理感・満足度や人間性等から構成される主観的な「情」の側面とのバランス（融合）のとれた問題解決理念・方針・戦略・方法・手段・手順の開発とその有効活用が求められている。

このような社会ニーズと問題背景のもとに、本学位論文においては、社会システムづくり（広義の社会問題解決）における「理」と「情」のバランスのとれた新しい問題解決理念・方針・戦略・方法・手段・手順を開発するために、中国及び日本をはじめとする東南アジアにおいて2,500年以上にわたって、人間の生き方、社会の在り方及び国の治め方（あるべき姿）について、倫理面・人間面・道徳面から説いている孔子思想（とくに20篇500章から構成される「論語」において記述された内容・教え）をシステム・マネジメント論の視点・立場から、KJ法等を活用して整理・分類・体系化を行うとともに、ここで得られた孔子論的問題解決アプローチ（仮称）を用いて、社会システムづくりにおける5つの主要課題：1) 推進手順（システムズ・アプローチ）、2) 意識革新（問題意識）、3) 連携・協働促進、4) 評価システム及び5) 情報支援（ICT化）、等について

考察並びに提案を行っている。

また、ここで提案された孔子論的問題解決アプローチの有効性及び特徴等を検証するために、少子高齢化が急速に進行している日本において、現在、注目されている地域包括ケアシステムの構築及び運用に関して本アプローチを応用するとともに、その有効性及び適応性についてシステム・マネジメント論の立場から具体的に考察並びに提言を行っている。

なお、本学位論文は全部で9章から構成されており、第2章以降の主な内容は以下の通りである。

第2章では、「理」と「情」のバランスがとれた新しい問題解決アプローチを開発するために、人間主義を中心とした孔子思想を、KJ法等を活用してシステム・マネジメント論の視点・立場から整理・分類・体系化を試みている。その結果、孔子思想の概要は、システム・マネジメント論の視点から「聞」・「権」・「安」という3つのキーワード(システム概念)にまとめられることを提案しているとともに、ここで体系化された孔子論的問題解決アプローチを、社会システムづくりにおける以下の5つの主要課題に対して適応し、詳細な考察と提言を行っている。

第3章では、主に7つのシステム化基本理念と8個のステップから構成される孔子論的システムズ・アプローチ(推進手順)を開発している。本アプローチは、「人間本位」、「バランス」、「全員参画」、「人間関係の重視」、「本質指向」という5大特徴を有している。また、従来の代表的なシステムズ・アプローチである帰納的アプローチおよび演繹的アプローチとの比較分析を行い、本アプローチの特徴を明らかにしている。また、本アプローチの有効性及び特徴を検証するために、具体的な地域包括ケアシステムの構築及び運営に対して適応を行っている。とくに、孔子論的推進手順の特徴の一つである「全員参画」及び「協力・信頼精神」に基づいて、地域包括ケアシステムの構築及び運営においては、「官」・「産」・「学」・「民」という4者の連携主体により推進していくことが望ましいと述べている。さらに、本アプローチにおいては、1) 個人の社会的責任PSR (Personal Social Responsibility): 「仁」の重視, 2) 集合知: 「学」の活用, 3) 教育啓発: 「教」の役割, 4) 礼儀・マナー: 「礼」の提唱、という4つの視点・態度の重要性とそれぞれの役割・意義について考察している。

第4章では、責任感: 「仁」、目標: 「志」、知識: 「知」及び基準: 「権」という4つの側面から構成されている問題意識が、問題解決の全過程において重要な役割を果たすという孔子論的問題意識構造モデルを提案している。また、その構造モデルの有効性を検証するために、本学位論文における共同研究相手である豊田市を具体事例として、地域包括ケアシステムに対する市民の意識実態分析を行った

結果等に基づいて、孔子論的問題意識構造モデルが、地域関係者の意識構造分析及び意識啓発に有効であることを明らかにしている。

第5章では、目標: 「志」、視点: (「怨」と「時」)、役割分担: 「名」、及び相互関係: 「和」という4つの側面から構成される孔子論的連携・協働モデルを提案するとともに、個人の社会的責任: 「仁」、及び知識・経験・知恵を相互学習及び共有する集合知としての「学」が、特に重要であることを明らかにしている。また、具体事例として、地域包括ケアシステムにおける介護・看護サービス従事者を対象として実施した連携・協働実態調査結果等に基づいて、孔子論的連携モデルの特徴及び検討課題を明らかにしているとともに、連携・協働促進における問題点及び促進方策・条件等についても詳細な考察を行っている。第6章では、評価方法、評価角度・視点、評価対象及び評価基準から構成される孔子論的評価システムを提案するとともに、タイミング及び継続性を重視する「評価視点」、安心・安全・安定に関する「安」の「評価尺度」及び社会的貢献を最優先する「重み付け評価方法」の3大項目からみた、孔子論的評価システムの特徴をまとめている。また、本章において、ここで提案した孔子論的評価システムに基づいて、地域包括ケアシステムにおいて中心的役割を担っている医療従事者(医師)の意識・活動実態分析及び総合評価を行っている。

第7章では、高度情報社会における社会システムの情報化(ICT化)の問題点及び課題について、システム・マネジメント論の視点から考察を行っている。とくに、孔子論的問題解決アプローチの視点・立場から、これからの高度情報社会における適切な問題解決方策並びにその効果的な情報システム化(ICT化)等について考察並びに提言を行っている。

第8章では、今後の検討課題として、本学位論文で提案した社会システムづくりにおける5大主要課題における孔子論的問題解決アプローチの更なる改良・発展をめざして、他の優れた思想・理念・手法・技術、例えば、老子・孟子思想との融合の可能性と期待、さらには西洋哲学・思想との融合、等についても言及している。

また、本研究において提唱した孔子論的問題解決アプローチの適応分野・領域として、安心・安全・快適・豊かな生活を目指している人間社会システムが抱えている多くの難問題(たとえば、原発問題、環境汚染問題、認知症問題、格差社会問題、等)への適応についての可能性と期待について述べている。

最後に、第9章では、本学位論文の結論として本研究の総括を行うとともに、今後期待される主な検討課題についても述べている。

以上により、本研究は、これからの複雑多岐にわたる社

会システムにおける諸問題を、システム・マネジメント論の立場・視点から総合的に解決していく新しい創造的問題解決アプローチとして、孔子論的視点・理念と方策を取り入れるとともに、現在、超高齢社会を迎えた我が国における最重要課題の一つである地域包括ケアシステムへの応用について価値ある知見と提言を行っており、学位論文として適切であることを認める。

なお、本学位論文の内容と直接関係している論文業績として、国内の権威ある査読論文4編（内、2編は本人が第一著者）、愛知工業大学経営情報科学誌4編（いずれも単著）、国際会議発表2回（いずれも第一著者）及び全国大会発表7回（内、4回は本人が第一著者）がある。

(受理 平成26年3月19日)